

拒絶理由通知書

ナノテクノロジー

特許出願の番号	特願 2006-537478
起案日	平成22年 8月18日
特許庁審査官	渡▲辺▼ 純也 3606 2J00
特許出願人代理人	木村 高久 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項

<<<< 最 後 >>>>

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出してください。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記

引用文献1. 特開平11-101810号公報

引用文献2. 特開平9-159680号公報

引用文献3. 米国特許第5245863号明細書

- ・請求項 10
- ・理由 1, 2
- ・引用文献 1
- ・備考

引用文献1（図6～12参照。）には、カンチレバーユニット（図6～12の10）において、支持体（図6～12の70，80）は、カンチレバー（図6～12の71a）の先端方向に向かって幅が階段状に狭まる部分とテーパ状に狭まる部分とを有し、前記テーパ状に狭まる部分は前記階段状に狭まる部分よりも前記カンチレバーの先端方向に配置されることが記載されている。

よって、請求項10に係る発明は、引用文献1に記載された発明と同一であるか、または、引用文献1に記載された発明に基づいて、当業者が容易に発明をすることができたものである。

- ・請求項 11
- ・理由 1，2
- ・引用文献 2
- ・備考

引用文献2（図4参照。）には、カンチレバーは試料とは反対側の背面側が剛性の支持体（図4の40）に装着されるカンチレバー組立品であって、カンチレバーの端部の近傍に配置された段状の部分（図4の1a）を有することが記載されている。

よって、請求項11に係る発明は、引用文献2に記載された発明と同一であるか、または、引用文献2に記載された発明に基づいて、当業者が容易に発明をすることができたものである。

- ・請求項 12
- ・理由 2
- ・引用文献 1～3
- ・備考

引用文献3（第2欄第63行～66行、第4欄第54行～56行、図1，7，9参照。）には、カンチレバーの背面側に高反射率材料の領域が設けられ、該領域は支持体に向かって傾斜する境界を有するカンチレバー組立品が記載されている。

よって、請求項12に係る発明は、引用文献1～3に記載された発明に基づいて、当業者が容易に発明をすることができたものである。

<拒絶の理由を発見しない請求項>

請求項1～9に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

最後の拒絶理由通知とする理由

整理番号: _____ 発送番号:600498 発送日:平成22年 8月24日 3/E

この拒絶理由通知は、最初の拒絶理由通知に対する応答時の補正によって通知することが必要になった拒絶理由のみを通知するものである。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第一部 材料分析 渡邊 純也

TEL. 03 (3581) 1101 内線 3250